



JOC-MPC プレスリリース

2024年8月9日 0時00分

JOCMPC-24-019

第33回オリンピック競技大会（2024／パリ）

メインプレスセンター（MPC）内JOCオフィス

Tel: +33 (0)9 20 24 05 79

E-mail: pressoffice@joc.or.jp

※本リリースに記載の時間は原則としてパリ時間となります。

件名：第33回オリンピック競技大会(2024/パリ)

トラック スプリント男子 予選・1回戦-3回戦

ケイリン女子1回戦

標記の件について、レース結果並びに選手のコメントをお知らせ致します。

記

■日時

2024年8月7日

■会場

ヴェロドローム・ド・サン・カンタン・アン・イヴリーヌ

パリ五輪第13日（7日）、自転車競技トラック スプリント男子予選・1回戦-3回戦、ケイリン女子1回戦が行われた。スプリント男子の太田海也と小原佑太は、ともに3回戦までを突破して翌日（8日）の準々決勝に進出。ケイリン女子の佐藤水菜は1回戦をストレートで勝ち上がり翌日（8日）の準々決勝へ。太田りゆは1回戦敗者復活戦に回ったものの、こちらも勝ち上がって佐藤とともに準々決勝へ進出となりました。

佐藤水菜（ケイリン）のコメント

「だいたいいつも1回戦で勝ち上がれないので、まずは突破できたことが嬉しいです。レース自体が久々すぎて、走っていてもレースに入れていない感じがありました。正直、レースがまったくわからない、読めない状態で大きなミスもしてしまいました。でもミスの後にすぐ切り替えて、自分の力でねじ伏せて勝ち上がったので、そこはうまくいったと思います。私は出ることを目標としていたわけではなく、勝つことを目標に、レースをしに来ていますので、オリンピックを楽しむというより、レースを勝つことを考えていますので、あまりオリンピックの空気



JOC-MPC プレスリリース

を感じていないのかもしれませんが、自分の調子自体は、もう少し上がって欲しい感じですが、バンクコンディションも良くて、タイム自体は良いものが出ています。上の選手はもっと上だから、明日も集中してがんばりたいです。」

太田りゆ（チームスプリント）のコメント

「1 回戦は少しのミスで上手くいかなかったのですが、レース自体はよく見られていたと思います。敗者復活戦はミスさえなければ 2 回目は絶対いけるという気持ちで挑めました。本当に良いレースができたと思います。望みに望んで、待ちに待った最高の舞台で、こんなにすごい声援を聞けて、景色を見られている。本当に最高、楽しいです。明日からが難しい勝負になってくると思います。世界選手権でも、こういう勝ち上がり方は厳しいと理解しているので、今日のことは嬉しかったですが、すぐ切り替えてメダルを目指して頑張って走りたいと思います。」

小原佑太（プリント）のコメント

「準々決勝進出を決めて、オリンピックという舞台をまた自分が明日楽しめることに対する喜び、そして一安心、という心境です。合計 7 本走りましたが、1 本 1 本集中して走りました。終わった後には脚の痛みがありましたが、オリンピックの声援や雰囲気がとても楽しく、リカバリーに入るとすぐに脚の痛みを忘れることができました。すぐに次の 1 本に集中できたと思います。最後は、直前にジェイソンヘッドコーチから「対戦相手の 2 人は疲れているように見えるから、チャンスがあったら思いっきり行け」と言われました。明日もハードなレースが続くと思いますが、とりあえず今は帰ってしっかりリカバリーをしようと思います。少しでも良い順位を獲れるよう頑張ります。」

太田海也（スプリント）のコメント

「とても長い 1 日でした。予選のハロン（200mFTT）から始まり、日本新記録を出すことはできましたが、目標としていた 9 秒 2 には届かなかったです。世界のレベルの高さを痛感しました。対戦では 1 回敗者復活戦に回ってしまい、気持ちが切れそうになるタイミングもありました。でも「自分は強い」と信じて戦って、明日のレースにつながるようなレースができて良かったと思います。1 本 1 本をオリンピック最後のレースだと思って、力を全部出し切っていくたいと思います。積極的に走っていけばメダルに届くと思うので、悔いのないオリンピックにしたいと思います。」

以上